

目標達成計画

作成日: 平成 26年 1月 17日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	出席者、主に地域の方などは敢えて固定せずに色々な方に出て頂けるよう配慮し、ヘブンリーの周知と活動状況を発信している。しかし、テーマに沿った方々の参加が促せておらず、専門的な話が来ていない。	まずは民生委員以外の方に運営推進会議に参加してもらい、グループホームの現状を理解して頂き、協力を仰ぎ、地域に根付いた施設を目指す。今まで声を掛けていなかった警察官や消防士の方に参加を依頼する。	年間の議題が決まっているため、予めテーマに沿った方々へ出席の依頼と資料を配布する。どうしても都合が付かない場合は文書などを頂き、会議に役立てるようにする。	12ヶ月
2	33	認知症の進行、ADLの低下など重度化に対する施設の方針が具体化されていない現状があり、看取りを行わない上での次の行先などの援助がまだまだ出来ない。	早い段階で本人や家族の希望を聞き、それに沿った支援が行えるようにしていく。特養などの申し込みも視野に入れ、分かりやすく家族へ説明していく。あくまで今の状態からレベルが下がらずに、出て行ってもらうのではなく、可能な限りここで居て頂く事をモットーにケアや環境整備に留意する。	日々の記録の細かな記載と申し送りにより、全職員が意思統一の図れたケアを目指す。生活面でのリハビリやケアは日々、改善できるが、医療的な事や最期については施設では決めかねるため、医師や家族と状態の変化に応じて話す機会を今まで以上に増やしていく。	12ヶ月
3	35	毎月、法人内で防災委員会を中心に何らかの訓練は行っている。自事業所においてもあらゆる場合を想定し、訓練しているが、近隣の方の協力が得られていないのが現状の課題。	年間の訓練を通じ、消防署の方の立ち合いだけでなく、近隣の方へも参加を促していく。予定等を予め配布する。	地域密着型の施設として近隣で災害等があった場合など、積極的に避難場所として受け入れられるよう、何らかの形で周知していく。逆に避難訓練など行うに当たって、可能な限り、参加協力をしてもらう。避難マニュアル、経路など分かりやすく作成し、災害時等のスムーズな連携を図っていく。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月